

指 定 管 理 業 務 評 価 結 果 書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	倉敷市児島障がい者支援センター
(2) 指定管理者	所在地 倉敷市笹沖 1 8 0 番地 名 称 社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団 代表者 理事長 藤 澤 徳 久
(3) 公の施設の所管部署	倉敷市保健福祉局社会福祉部 障がい福祉課
(4) 評価対象期間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

2 総合評価結果

(1) 市の評価	今年度は、「地域に根差した取り組みができて いるか」を重視して評価した。 小学校への出前講座や中学生のボランティア 受け入れ等、地域のこれからを担う世代と交流 し、障がい啓発を行えている点は、評価できる。 困難事例に対し、他機関ともよく連携し、丁寧 に対応することができている。	総合評価
		S
(2) 指定管理者の自己評価	今年度は「地域に根差した取り組みができて いるか」に重点を おき評価を行った。 ・介護保険に移行するケースが毎年あり、高齢者支援センター 等との関係づくりがすでにできている。そのため「支援対象世 帯に引きこもりや障がい疑われる家族がいるため、支援をお 願いしたい」という相談が複数あり、必要な支援を行った。 ・味野小学校から 4 年生（2 クラス 4 0 名）の「福祉の授業」 への協力依頼があった。視覚障がい当事者 2 名に協力していただ き、視覚障がいの生活、サポートするときの声かけの仕方 や説明方法、視覚障がい体験等、障がい啓発と地域づくりを意 識して出前講座を行なった。 ・虐待ケースや親亡きあとの支援として成年後見制度申し立て の相談も多く、倉敷市福祉援護課等の関係機関と連携しながら 慎重に取り組んだ。また、世帯に複数支援対象者がおり、それ ぞれに抱える課題も複雑化、多様化していることから、関係機 関との連絡調整や会議日程調整など時間を要するケースが大 幅に増加している。 ・電話相談については、利用者の状況把握に努め、必要な情報 は関係機関と共有し連携した支援が行えるようにした。 ・サロン活動については、利用者の声を聞き創意工夫をしなが	

	らプログラムを実施した。 ・「児島はばたきふれあい祭り」を10月に実施し、地域に向けた障がいの啓発を行った。
(3) アンケート結果の概要	・管理運営について、回答したすべての方（100％）が、満足又はほぼ満足との結果であった。 ・アンケート結果については、別紙のとおり。

3 施設の利用状況

(1) 利用実績			今年度	前年度	特記事項（前年比）
	施設利用者		14,179 人	14,272 人	99.4%
	相談支援	面接相談	3,072 件	2,438 件	126.0%
		電話相談	6,845 件	6,271 件	109.2%
		家庭訪問	699 件	637 件	109.7%
		同行	99 件	77 件	128.6%
		ケア会議	146 件	140 件	104.3%
	相談支援合計		10,861 件	9,563 件	113.6%
(2) 事業の内容	(1) 日常生活支援				
	(2) 在宅福祉サービスの利用援助				
	(3) 相談・情報提供				
	(4) 特定相談支援事業及び障害児相談支援事業				
	(5) 地域交流・啓発活動				
	(6) 障がい者及び家族等の地域生活の支援				

4 収支（児島）

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 40,638 千円 市からの指定管理料（委託料） 36,834 千円 利用料金 2,803 千円 認定調査業務委託料 386 千円 その他の収入 615 千円		
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 38,741 千円 支出 人件費 28,822 千円 光熱水費 1,389 千円 修繕料 477 千円 備品購入費 0 千円 消耗品費 445 千円 施設管理委託費 1,099 千円 その他経費 6,509 千円		